

秋の気配を感じつつも、この間の超大型台風のもたらした大きな爪痕、そして予想以上に長引いた停電や断水といった災害からの一日も早い復興と、被害を受けられました皆様に心よりお見舞い申し上げます。

現在会員登録数3,131人さま。次号は10月23日発行の予定です／

十----- ◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----十

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

十-----十

■-----■
【1】お知らせ

●第17回国際グリム賞 贈呈式・記念講演会 参加者募集

世界の優れた児童文学研究者を顕彰する第17回「国際グリム賞」(国際児童文学研究賞)の受賞者が、三宅興子教授(梅花女子大学名誉教授、当財団特別顧問)に決定しました。贈呈式および記念講演会を開催します。

講師：第17回国際グリム賞受賞者 三宅 興子 教授

演題：「イギリス児童文学史再構築論を通して、日本児童文学を再考する」

日時：11月9日(土)午後2時～4時

会場：国民會館 武藤記念ホール(大阪市中央区大手前2)

定員：100人(申込先着順) 参加費：無料

主催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団／

一般財団法人 金蘭会／大阪府立大手前高等学校同窓会 金蘭会

お申込み、詳細は ↓↓

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/01_grimm/index.html#17kettei

●講演会「紙芝居の歴史から子どもの読書文化について考える」参加者募集

講師：浅岡 靖央 さん(児童文化研究者、白百合女子大学教授)

日時：11月30日(土)午後2時～4時

会場：大阪府立中央図書館 2階大会議室(東大阪市荒本)

定員：60人(申込先着順) 参加費：1000円

主催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

後援：大阪府立中央図書館

助成：子どもゆめ基金助成活動

お申込み、詳細は ↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html#kamishibaikoenkai

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。
お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

● 当財団公式 Twitter → https://twitter.com/IICLO_News

■ ----- ■
【 2 】 コラム
■ ----- ■

《 1 》 この本読んだ？ Yasuko's & Kazumi's Talk

「あしたのための本」『民主主義は誰のもの？』『独裁政治とは？』『社会格差はどこから？』『女と男のちがって？』プランテルグループ/文 宇野和美/訳 絵は順に、マルタ・ピナ、ミケル・カサル、ジュアン・ネグレスコロール、ルシ・グティエレス あかね書房 2019年7月

対象年齢：小学校高学年以上

概要：「わたしたちが生きる社会はどのようなものか、どんなことが社会でおきてきたかを、4つのテーマからわかりやすく説明したシリーズ」（「はじめに」より）。約40年前に書かれた文に、新しいイラストレーションを付して2015年にスペインで出版された。

Y：この本を訳されたきっかけは何ですか。

K：イタリアのポローニャ国際児童図書展で、イラストレーション、テキスト、ブックデザイン、印刷技法などを総合的に評価して優れた本に贈られるポローニャ・ラガッツィ賞のノンフィクション部門最優秀賞を受賞したのを知り、取り寄せて読みました。

Y：なぜ、翻訳されたいと思ったのですか。

K：日本にこのような本がないと思ったからです。この本は、社会や政治の仕組みを詳しく説明し、知識を伝えている本というより、読者に社会や政治について考えてもらうための本になっています。その点がとてもユニークだと思いました。

Y：すべての本の「はじめに」に宇野さんの言葉で「ここには、時や場所がちがっても変わらない、社会についてのたいせつなことが書かれているといえるだろう。

きみたちはどんなあしたをつくっていきたいのか、この本をきっかけに、ひとりひとりが自分の頭で考えてくれるならうれしい。」とおっしゃっています。

K：そうなんです。ですから最後のクイズも正しい答えを選ぶのではなく、どの答えも考えようによってはあり得る問いになっています。

Y：出版が決まったきっかけは何ですか。

K：この本を出版したスペインの Media Vaca の編集者が来日したときに、日本の編集者に向けてプレゼンをしてもらって決まりました。Media Vaca は一年に3タイトルぐらいしか本を出版せず、「売れる本」ではなく、「自分がおもしろいと思える本」にこだわります。イラストレーションにも心を配った丁寧な本作りをされています。

Y：どの本のイラストレーションも書かれている言葉が現代的に解釈できる

ような大胆さ、自由さがあって楽しめます。『女と男のちがいて？』は、文は40年前なのでLGBTQには触れられていませんが、表紙の絵を見ると、性の多様性が読み取れます。特に『民主主義は誰のもの？』のコラージュは、社会がいかに多様なかけらによって作られているか、考えはいかに自由かということが伝わってきます。

翻訳で苦労されたところはどこですか。

K：難しい内容をいかにわかりやすい言葉で伝えるか。直訳ではなく、本にある「精神」を日本の子どもにどう伝えられるかで悩みました。日本の子ども向けに書かれた憲法や民主主義について書かれた本などを読んで訳文を作り上げました。

Y：日本を意識されているという点では、佐藤卓巳さん（『独裁政治とは？』）などのコラムがあることで、思考が深まるようになっていきます。

K：この本をきっかけにして、日本や世界の社会や未来について考えてもらえればうれしいです。

* 今回のゲストは本書の翻訳者の宇野和美さん（K）です。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第49回「畑のへり」

もう一つの「童話的構図」

「麻が刈られましたので、畑のへりに一列に植えられていたとうもろこしは、大へん立派に目立ってきました。」——これが書き出し。ごく短い作品です。織物の原料にするために、麻の茎を刈りとるのは夏から秋にかけてですから、これは、秋のはじめの物語でしょうか。

とうもろこしを見て、蛙がびっくりします。——「おや、へんな動物が立っているぞ。からだは痩せてひよろひよろだが、ちゃんと列を組んでいる。ことによるとこれはカマジン国の兵隊だぞ。」「カマジン国」は、童話「クネねずみ」や「鳥箱先生とフウねずみ」にも出てくる、賢治の造語国名です。西域（チベットやインドなど中国から西の諸地域）を意識した命名ともいわれます（原子朗『定本宮沢賢治語彙辞典』2013年）。

蛙は、もう一匹きの蛙に「カマジン国の兵隊がとうとうやって来た。みんな二ひきか三ひきぐらい幽霊をわきにかかえてる。」とさわぎ立てます。もう一匹きの蛙は、遠めがねで見て、こういいます。——「あれはとうもろこしというやつだ。おれは去年から知ってるよ。そんなに人が悪くない。わきに居るのは幽霊でない。みんな立派な娘さんだよ。娘さんたちはみんな緑のマントを着てるよ。」

蛙が「足から頭の方へ逆（さかさま）に着ているんだ。それにマントを六枚も重ねて着るなんて、聞いた事も見た事もない贅沢だ。」というので、もう一匹きの蛙は、「ははあ、しかし世の中はさまざまだぜ。」と教えます。——「たとえば兎なんと云うものは耳が天までとどいている。そのさきは細くなって見えにくいくらいだ。豚なんと云うものは鼻がらっぱになっている。」そして、「また人というものを知っているかね。人というものは頭の上の方に十六本の手がついている。」ともいい出すのですが。

蛙の眼から見た、ずいぶん奇体な世界が語られていきます。蟻の子どもから見たきのこを描いたのが「朝に就ての童話的構図」(当メルマガ NO.106)ですが、賢治がのこしたメモによれば、「畑のへり」もまた、「童話的構図」というくくりに取りめられる作品の一つなのです。(馬車別当)

(本文の引用は、筑摩書房版『宮沢賢治コレクション』5によりました。)

《3》子どもの本の珠玉のことば 3

カタカタ、カタ、カタ……。

バーナーの火がゆらめきます。何か、鍋の中から出てきます。最初に、鍋からあふれ出したのは、青白くすきとおった光でした。青白い光は闇を照らし、理科室の中を、海の底のような輝きでみたしていきました。

まあ、大きい大きなものが、ゆっくりと鍋のふちから顔をのぞかせます。

(『菜の子先生がやってきた! 学校ふしぎ案内 つむじ風の一学期』富安陽子/著 福音館書店 2003年5月 p.210)

これは、突然学校に現れた「菜の子先生」が子どもたちを前に理科室で不思議な実験をしている様子です。「まっ黒い、ススのような、煙みたいなものが、闇のようにわだかまっている」大きな鍋に、ガラスびんの中にある色とりどりのビーズのようなものを振りまくと、理科室中に闇が広がり、鍋から、クマやカラスやオオカミが現れて天に上ります。そして、それらは、星になります。次に菜の子先生は、ケシゴムを鍋に投げ込みます。すると、引用のような情景になり、空に月が浮かびます。

先日、富安さんの作品を改めて読む機会があり、この部分を声に出して読むとその魅力がますます増すことに気づきました。ケシゴムが月になるおかしさとあいまって、ユーモラスで、不思議で、美しい富安作品らしい場面になっています。

富安さんは高校卒業記念に、ご両親から『童話集』を自費出版してもらわれており、その中には既に「菜の子先生」の作品が入っています。後年出版された作品とは設定もストーリーも異なっていますが、菜の子先生が子どもたちの前で不思議な実験をするのは同じです。宮沢賢治が好きだった富安さんが、高校生か、もしかしたらもっと前から想像していた不思議な世界だからこそ、そのイメージが鮮やかで、読者も追体験できるのではないかと思いました。(Y)

《4》行って来ました!

西宮市大谷記念美術館で9月23日まで開催されている巡回展「2019 イタリア・ポローニャ国際絵本原画展」に行ってきました。応募された62か国2901作品から入選した日本人10人を含む27か国76作家の5点1組の絵本原画、昨年、国際アンデルセン賞を受賞したイーゴリ・オレイニコフの原画などが展示されています。

これまでのポローニャ国際絵本原画展以上に絵から物語が想像できる作品が多く、手法や題材、テーマも多様に感じました。

たとえば、ウクライナのオリガ・シトンダ「自転車」は、自転車を修理している人物をエネルギーに描いています。後ろ姿でありながら、右手に空気入れ、左手にねじを持ち、正面の壁一面に道具が掛けられている様子は、好きな仕事をする楽しさが感じられます。ニードルフェルトで作った人形を写真に撮って家族の姿を描いたカナダのホルマン・ウォン「パパは仕事じょうず」は、お父さんが子どもたちに絵本を読んでいる姿を「図書館司書」、けんかの仲裁を「裁判官」と名付けてユーモラスです。

ノンフィクションとしては、フランスのヴィルジニー・プフェフェール「からだを探検してみよう！」がありました。皮膚の下の筋肉や眼球や血管の中が鮮やかな色と繊細な線で表現されており、人間のからだの仕組みを楽しみながら知ることのできる作品だと思いました。一見ノンフィクションに見えながらも実は違うという作品が、トルコのフェリドゥン・オラル「見たままそのまま？」。博物画のようですが、よく見ると、野菜や果物が虫や魚になっています。

他にも当財団主催の「第31回 日産 童話と絵本のグランプリ」大賞受賞者の作品（たなかやすひろ「花は咲いている」）もあり、受賞後の活躍を知ってうれしくなりました。（K）

【3】全国のイベント紹介

● 企画展「のらくろであります！田川水泡と子供マンガの遊園地（ワンダーランド）」

会 期：開催中～11月24日（日） 休館日あり
時 間：9：30～17：00（入館は16：30まで） 料 金：有料
場 所：川崎市市民ミュージアム（神奈川県川崎市）
主 催：川崎市市民ミュージアム

● 「シヨーン・タンの世界展 どこでもないどこかへ」

会 期：9月21日（土）～10月14日（月・祝） 休館日あり
時 間：10：00～20：00（入館は19：30まで） 料 金：有料
場 所：美術館「えき」KYOTO（ジェイアール京都伊勢丹7階）
主 催：美術館「えき」KYOTO、京都新聞
監 修：シヨーン・タン、ちひろ美術館

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『民主主義は誰のもの？』（訳者宇野和美さんのサイン入り）を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ NO.109 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメ

ルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。
締切は 10 月 10 日(木)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |
— | — | — | — | — | — | — | — | — |

近年の猛暑の影響もあり、これから冬モードに変わっていくはずの身体は、
まだまだ夏モードを引きずっており、そのストレスが過食につながっている
とのこと。いやいや、「食欲の秋」なる言葉は昔からあり、おいしそうな秋
の食べ物が続々と出てくる季節だから。とつぶやきつつ、今夜は初物のサン
マに舌鼓。(T A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお
願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
